

ブラジル金融政策（2022年12月）

財政政策への警戒感が高まるも、利上げ再開の可能性は低い

2022年12月8日

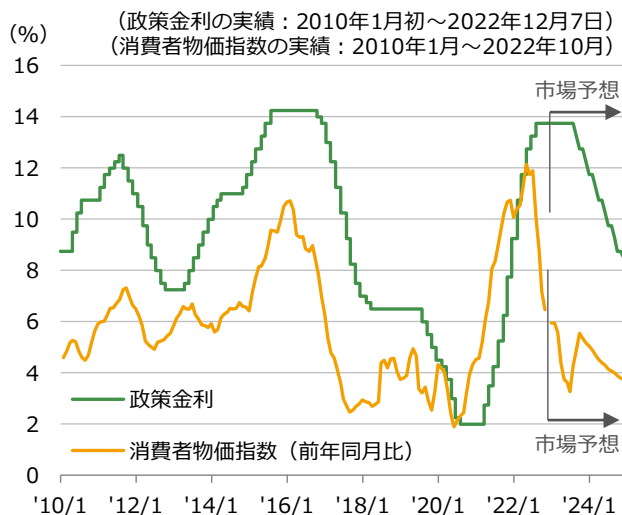
ルラ次期大統領の政策運営をにらみながら、当面は政策金利据え置きか

ブラジル中央銀行は12月7日（現地）、金融政策決定会合を開催し、政策金利を13.75%に据え置くことを決定しました。据え置きは3会合連続です。

前回10月会合からの大きな変化は、10月30日の大統領選挙決選投票で勝利したルラ次期大統領による拡張的な財政政策への警戒感が高まったことです。声明文では、当面のインフレ見通しが小幅に上方修正され、「特に財政面の不透明感が強いいため、現在の見通しにおけるリスクを評価する際には冷静さが必要である。今後の財政政策の動向、特に資産価格やインフレ期待への影響、ならびに将来のインフレに与える潜在的なインパクトを注視していく」との文言が追加されており、拡張的な財政政策によるインフレ見通しの上振れリスクを警戒している様子が見えられます。一方、今後の方針は前回と一言一句同じで、①現行の高い政策金利を長期間維持する姿勢と②利上げ再開を躊躇しない構えが示されました。インフレ率はすでに政策金利を大幅に下回る水準まで鈍化している上、財政支出の規模は当初案から大幅に削減される見込みであり、依然として利上げを再開する可能性は低いでしょう。当面は政策金利を据え置きながら、実際の財政支出の規模やそれがインフレに与える影響を注視する時間帯が続きそうです。

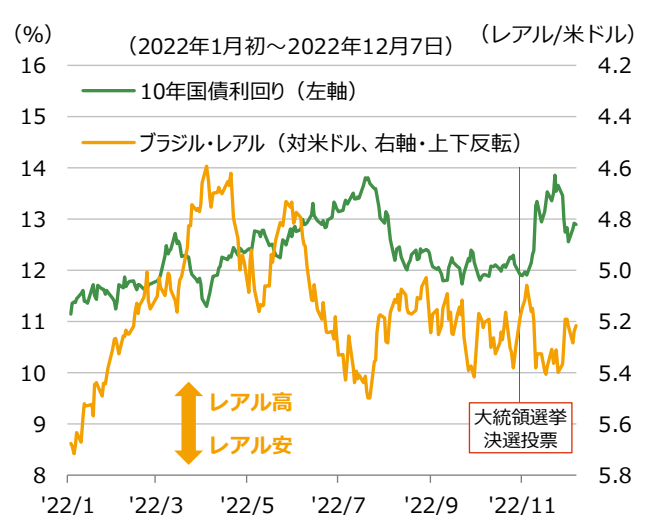
足元の金融市場は一時の動揺から落ち着きを取り戻しています。今後、財政面の不透明感が後退し、利下げ開始が近づく局面では、更なる金利の低下（債券価格の上昇）が期待できるでしょう。

ブラジルの政策金利と消費者物価指数



※政策金利の市場予想は2022年12月末～2024年11月末
 ※消費者物価指数の市場予想は2022年11月～2024年11月
 (出所) ブルームバーグ、ブラジル中央銀行

ブラジルの10年国債利回りと為替レート



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。